


Subject : **Japanese**Production of Courseware
 - Content for Post Graduate CoursesPaper No. **02** : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module **08** : **品詞と活用 (Word Class System and Conjugation)****Development Team****Principal Investigator:** **Prof. Anita Khanna**
Jawaharlal Nehru University, New Delhi**Paper Coordinator:** **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Writer:** **Prof. Hideki Kishimoto**
Kobe University**Content Reviewer:** **Prof. Prashant Pardeshi**
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Japanese

Japanese Linguistics

品詞と活用 (Word Class System and Conjugation)

| Description of Module | |
|-----------------------|---|
| Subject Name | Japanese |
| Paper Name | 日本語学 (Japanese Linguistics) |
| Module Title | 品詞と活用 (Word Class System and Conjugation) |
| Module ID | JPN-P02-M08 |
| Quadrant 3 | Learn More |

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

品詞と活用 (Word Class System and Conjugation)

Quadrant 3: Learn more

さんこうぶんけん

参考文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（著）(2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

加藤重広 (2006) 『日本語文法入門ハンドブック』研究社.

日本語記述文法研究会（編）(2010) 『現代日本語文法 1』くろしお出版.

益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法-改訂版-』くろしお出版.

Shibatani, Masayoshi (1990) *The Languages of Japan*. Cambridge: Cambridge University Press.

Tsujimura, Natsuko (1996) *An Introduction to Japanese Linguistics*. Oxford: Blackwell.

Interesting facts

- 活用の歴史変化

本モジュールの活用表は、伝統文法（およびそれに準拠する学校文法）の考え

に基づいている。現代日本語では、動詞および形容詞（イ形容詞）の終止形と連体形は

常に同じ形になるが、ここで用いている活用表には 2 つの欄がある。これは、古い

日本語において動詞および形容詞に連体形と終止形の形態的な区別があったため、

伝統文法では、現代日本語には必要ないはずの区別を慣習的に現代日本語の活用に

設定するためである（また、2 つの活用欄があったほうが古い日本語と現代日本語を

比較して研究するのに便利であるという事情もある）。同じように、形容詞（イ

けいようし けいようどうし けいようし めいれいけい かつよう めいれいけい らん
形容詞)・形容動詞(ナ形容詞)には命令形の活用がないのに、命令形の欄がある。こ

ふる にほんご けいようし けいようどうし めいれいけい
れも、古い日本語では形容詞・形容動詞には命令形があったためである。

にほんご じゅつご かつよう れきしてき み こと へんか お
日本語の述語の活用は、歴史的に見ていくつかの異なる変化を起こしている。なか

どうし けいようし けいようし しゅうしけい れんたいけい あいだ お れきしへんか
でも動詞(および形容詞(イ形容詞))の終止形と連体形の間で起こった歴史変化は、

どうし く かつよう れい み
(1)の動詞の「くる(来る)」の活用の例を見るとわかりやすい。

(1)

| | | | |
|--|--------------|--|--------------|
| | げんだいにほんご | | ふる にほんご |
| | <u>現代日本語</u> | | <u>古い日本語</u> |

| | | | |
|-----|--------|--|--------|
| | しゅうしけい | | しゅうしけい |
| 終止形 | くる | | く |
| | れんたいけい | | れんたいけい |
| 連体形 | くる | | くる |

ふる にほんご どうし く しゅうしけい げんだいにほんご
古い日本語の動詞は「く(来)」で、その終止形は「く」であるが、現代日本語では

しゅうしけい れんたいけい かん ふる にほんご げんだいにほんご
終止形が「くる」になっている。連体形に関しては、古い日本語でも現代日本語でも、

かつようけい おな かつようけい くら ふる にほんご げんだい
「くる」で活用形は同じである。これらの活用形を比べると、古い日本語から現代

にほんご へんか かに しゅうしけい し かつようらん れんたいけい
日本語に変化する過程において、「終止形」によって占められていた活用欄に「連体形」

しんにゆう れんたいけい しゅうしけい お だ
が侵入し、「連体形」が「終止形」を追い出してしまったことがわかる。
